

一字の坊舎を建立し給ふ。是高岡守山極樂寺の開祖佛眼明心法親王と奉稱。扈從の臣大西七高・所司・荒木・柴田等五人の後裔于今有之と、射水郡上牧野村長福寺來歴書等に載せたり。故に實に舊家なりしかど、子孫紺屋職と成りて越中に居住し、後金澤へ出で安江木町に居住し、其の後仁隨寺前へ移轉せしと聞ゆ。

○荒 町

犀川口にもそのかみ荒町あり。故に木、新保荒町と呼びたりとぞ。按するに、寛文十年の九十歳者書上帳に、木、新保新町と見ゆ、此の外元祿・享保頃の記録にも木、新保新町とあり。或は云ふ。荒町は新町の義にて、新たに町立せし故の町名なりとぞ。荒町と書けるも、元祿九年の地子町肝煎裁許附に、鍛冶片原町の次に荒町と載せたり。

○木越山光專寺

東派眞宗道場也。龜尾記に云ふ。荒町光專寺はいにしへ河北郡木越に居住せしゆゑ、今に至り木越山と號す。天正八年閏三月柴田勝家に潰されて、能登口郡所々に轉居し、後羽咋郡米出村に居す。故に今に至りて、米出光專寺と呼べ

り。是今の高松光專寺の事也。然るに住持隱居の後、別に一寺を金澤に建立し、本寺は高松にありて、今も猶父子相互に住職せり。此の寺に種々什物ある中にも、能登國七尾の城主昌山次郎義綱の書翰・花押の物并に同老臣三宅備後等の書翰・花押之物など傳來すといへり。

由 來 書

一、私寺之儀、先祖誓乘与申僧にて御座候。文龜二壬戌三月十五日寺相建。寺之儀先年羽咋郡押水之庄内小川村に有之、其後河北郡之内木越村に數年罷在、又其後能州米出村に罷越、五拾ヶ年餘罷在申候。

萬治四年四月廿六日

能州押水米出村 木越 光專寺

專 光 寺 様

御尋に付申上候。

一、私寺之儀、當地に門徒御座候故、岡嶋市郎兵衛殿・葛巻藏人殿に御斷申上、能州押水米出村より、慶安三年當地荒町に隱居仕罷在申候。
右之通相違無御座候。以上。

萬治四年五月七日 能州押水米出村

木越光專寺隱居祇尊 判

右萬治四年五月の由來書にて見れば、慶安三年金澤木、新保荒町に隱居地として當寺を建立し、高松光專寺の掛所となしたるもの也。

○佐々主殿番邸

延寶の金澤圖に下の如く出せり。一説に、佐々主殿の居邸は、專光寺の向ひ石野氏の邸地也。佐々氏事あるの後、葛巻圖書の邸地となり、葛巻内藏太の代に移轉し、其の跡を石野主殿助拜領すといへり。今按するに、延寶の金澤圖に、專光寺の向ひは熊谷頼母と記載あれば、右一説は過聞なるべし。荒町佐々氏舊邸地後に鍛冶町八幡へ請込地となし、今も其の儘なり。

○佐々主殿傳

主殿が履歴は、延寶五年藩侯へ呈進せし由緒帳あり。其の寫を記載して、考證とはなしぬ。

一、知行千石 歳五拾六 佐々主殿

微妙院様の、私儀寛永十三年に被召出、私父藤右衛門隱居

